

令和2年新年市民祝賀会市長挨拶

新年明けましておめでとうございます。謹んで、新春のお慶びを申し上げます。御参会の皆様方には、新たな希望を胸に、穏やかな新春をお迎えになられたことと存じます。

早いもので市長就任後四回目となる新年を迎えることとなりました。この間、市民の皆様には市政各般にわたり、格別の御理解御協力を賜わっておりますことに深く深く感謝申し上げます。

去年は、皇位継承により、新たに天皇陛下が御即位され令和新時代を迎えました。

「令和」には、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花が咲かせることができる日本でありたいとの願いを込められています。

そのような中、私は「未来（あす）への挑戦」をキャッチフレーズに掲げ、「ワクワク度日本一のまちづくり」を目指して、前進した一年となりました。長年の懸案であった松山分水に関する愛媛県への回答を、市民の皆様と一緒に導くことができました。また、地域自治組織設立に向けた動きの広がりや、注力してきた移住促進は確実に成果もみられているところであります。

こうした取組が、着実に実を結んでいることを示す朗報が新年早々にもたらされましたので、皆様に御報告申し上げます。

去年もこの場で紹介させていただきましたが、出版社の宝島社から『田舎暮らしの本』という月刊誌が発行されてございます。

一昨日4日に発売された『田舎暮らしの本』2月号におきまして、特集記事として「2020年版住みたい田舎ベストランキング」が掲載されています。

この中で西条市は、人口10万人以上の大きなまちのランキングのうち、「若者世代が住みたい田舎ランキング部門」で全国1位を獲得いたしました。昨年の同部門での全国5位から、一気に首位へと飛躍をいたしました。この結果は、本市の魅力が着実に浸透し、広がりを見せている表れと実感しているところでございます。

これもひとえに、「住みたい西条」「つながり広がる西条」の実現に向けての取組に対する、市民の皆様の御理解とお力添えの賜物でありまして、改めて深く感謝を申し上げる次第であります。

また、本年開催の東京オリンピックスポーツクライミング競技代表選手の事前合宿に向けた取組も進展するなど、3年前に皆様とお約束をさせていただいた五つの基本政策を着実に推進しているところであります。

私は、令和という新時代に更なる市勢の発展を願い、新年への意気込みを表す漢字として飛躍の「躍」、躍動の「躍」を掲げました。

折しも令和2年2020年の干支は「庚子(かのえ・ね)」。「庚子」が表す意味は新たな芽吹きと繁栄の始まり。新しいことを始めると上手くいく大吉であると示されてございます。「庚」は上手く轉身できる年「子」は賢くスタートが切れる年と言われております。

本年は私自身にとりましても集大成の年となります。市長就任以来一貫して掲げてきた、都市間競争における「勝ち残るまち」、より

多くの方に「住んでみたい」「住み続けたい」と思っただけの魅力あふれる「西条」に向け、更なる飛躍の年となれるよう躍動して参る所存であります。

あわせて私たちの子供や孫の世代へ私たちが暮らす西条を今後託していかなくてはなりません。“持続可能なまちづくり”に向けて、市民の皆様に痛みを伴う場面がでてくるかもしれませんが、御批判、反発も覚悟し、成果を求めて、前に進んでいきたいと思っておりますので、旧に倍しましての御理解御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして健康で幸多き一年となりますよう心から御祈念を申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。令和2年、今年もどうかよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

令和2年1月6日
西条市長 玉井 敏久